

平成27年度 第1回 千葉県特別支援教育研究推進会議 議事録（要旨）

- 1 日 時 平成27年7月17日（金）13:30～16:30
- 2 場 所 千葉県教育会館 304会議室
- 3 議 題 今後の千葉県特別支援教育の目指す姿及び次期特別支援教育推進基本計画について
- 4 配布資料 資料1～9
- 5 出席者 委員8人（委員1人欠席）、事務局4人
- 6 傍聴者 無し

■課長挨拶

- ・平成27年2月に「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」を策定。それを受けて、一年前倒して、「第2次千葉県特別支援教育研究推進基本計画」を策定する。
- ・今後の課題として、
 - 特別支援学校の児童生徒数の増加、もっと増加率の高い特別支援学級や通級による指導。今後どのような対応をしていくか。
 - 精神疾患、情緒の問題、行動の問題。
 - 高等学校の特別支援教育。
 - インクルーシブ教育システムの構築。
- ・これまで千葉県が取り組んできたこと：例えば、視覚、聴覚、肢体不自由、病弱の通級による指導、就労率の向上、学習能力の高い子どもたちの学力の担保 等々
- ・今後、5年間で何をすべきか、千葉県の特色ある、具体的な計画としたい。

■議事

委員

- ・障害者権利条約の批准については、共生社会の実現（障害者を含む多様性の尊重）が重要。
- ・特別支援学校側だけが頑張るのではなく、小・中学校等の先生方も一緒に共生社会を目指す、お互いが多様性の尊重をしていくという趣旨が入るとよい。

委員

- ・障害者理解に係る講演会で「みんなに、得手・不得手がある。これを理解し合うことこそが大切」という内容。このような発想を指導していくことが「共生社会」の実現につながっていくと思う。
- ・小中学校には特別支援学級があって、交流及び共同学習が進んでいるが、高等学校に入るとシャットアウトという感がある。「みんな違ってみんないい」的な発想を深めたい。
- ・特別支援学校の分教室を設置している高等学校や、特別支援学級が設置されている学校は経験的に障害者理解が進んでいるように思う。
- ・高等学校でも現在のカリキュラムの中で実践的にできることがいろいろあると考えている。

委員

- ・若手教員の増加。若手を特別支援学級の担任にして、特別支援の振興をすすめるべき。
- ・発達障害の生徒を指導する場合、まずは「支援・援助」であると考える。
- ・保護者と医療との連携が不足しているように思う。横のつながりを広げる努力をしてほしい。

委員

- ・専門性の向上が一番の課題。校長会でも話題となっている。
- ・教員の子どもを見る許容範囲が狭くなってきているように思う。すべての教員が特別支援教育をよく理解することが大切。
- ・大学で必須科目として「特別支援教育」を大きく位置づける、また、数日間、施設や特別支

援学校へ実習すること等を必修とする等の連携をすべきではないか。

- ・大学が無理なら、初任者研修や10年経験者研修で悉皆とするようにすればよい。
- ・特別支援教育コーディネーターの専任制は必要。兼務では無理。
- ・採用試験で、特別支援学級の採用枠を作るというのも一案。

委員

- ・初任者研修・フォローアップ研修、5年研修、10年経験者研修を上手に活用して、実習・演習のような研修を充実させたい。

委員

- ・今後、特別支援学級・特別支援学校、児童生徒数は増加することと思う。これに、どう対応するのか。検討が必要。
- ・通常の学級に在籍する、発達障害等の児童生徒への支援は、どうしていくのか。検討が必要。
- ・教員免許法については、国の動向を見守る。

委員

- ・特別支援学校のセンター的機能の充実をすすめているが、小中高等学校の数に比べて、特別支援学校40校は少なすぎて、これ以上は困難である。今後は、特別支援学級が、校内のセンター的機能を発揮できるような体制作りが重要である。外部人材の活用を含めて検討すべき。
- ・高等学校に特別支援学級を設置することは重要。多様な学びの場の構築により「保護者が選べる」ことが重要。

委員

- ・障害種が広がってきている。すべての障害種に対応するのは困難。先生方には、まずは、ベースとなる障害種への対応をしっかりと理解してほしい。研修による教員の質の向上を。

委員

- ・教員の専門性の向上を図りたい。先生によって、暴れもするし落ち着きもする。
- ・保護者支援が重要。今、実施している指導・支援の目的（将来、どういう力となるのか等）を保護者に説明できない教員がいる。保護者は不安になる。

休 憩

委員

- ・子どもの発達が気になっている保護者が相談しにくい現状。匿名によるサイトの構築等を検討してほしい。

委員

- ・地域・保護者を巻き込んでいくことが大切。コミュニティースクールで、いつでも相談にのれる人材の活用を図ったことがあり、有効であった。地域の人材活用を具体化する方策を。

委員

- ・合理的配慮について、どの場所で学ぶか、を含めて、柔軟に対応するということが大切。配慮の詳細が明記できるようにすることが重要。

委員

- ・ユニバーサルデザインの考え方について、みんなにいいものを目指すことは反対ではないが、必ずそこに合わない人がいるということは忘れないでほしい。

委員

- ・ユニバーサルデザインとは、みんなにわかりやすく、理解しやすいこと。
- ・合理的配慮を否定することは差別となる。最大限の配慮を考えていく姿勢は必要であるということ、保護者と合意形成を図ること

委員

- ・本計画については、広く、みなさんが理解できるような書き方を工夫してほしい。

委員

- ・具体性のある、はっきりとした方向性を示すことが大切。多いと読まないで、シンプルでわかりやすい表記を心がけてほしい。
- ・理解できるとよく動ける。理解を浸透させたい。
- ・基礎的な学習支援・コミュニケーションスキル支援の指導が課題である。

委員

- ・高等学校では、学習等の学校生活の充実があって、その上で職業的自立がある。

委員

- ・高等学校で基礎的な学習をやっている生徒もいるが、職業的自立というと途中が抜けて、飛んでいる気がする。

委員

- ・高等学校では、何よりも「高校生活の充実」こそが大切。

委員

- ・まずは、トラブルがないこと。それができてこそ、学習支援が可能となる。普通高校は職業教育については遅れている。

委員

- ・高等学校に、特別支援学級を作ることは、多様な教育の場の一つとなる。

委員

- ・高等学校の特別支援学級は、地域での生活を考えた場合、必要である。もっとやわらかな環境を作ってあげることでもうまくいく場合があるのではないか。

委員

- ・分校分教室のある学校とない学校では設置が違ってくるのではないか。

委員

- ・どのランクの高等学校に作るのか、等の課題も多い。
- ・豊かに育っている子どもたちのところに作ってあげればよいが。

委員

- ・今後5年間の中でどういれていくか。

委員

- ・大学の支援プログラムはよくできている。入学試験はあるが、校内にサポートシステムがあり、機能している。高等学校に活用できるのではないか。

事務局

- ・サポートする仕組みはある程度ある。学習として学べる場をどう作るかと言うことを研究している。

委員

- ・特別支援教育コーディネーターがキーパーソンとなる。専任化を望む。

事務局

- ・高校のコーディネーターの研修会を実施している。
- ・配置については、特別支援教育全体について文科省に定数配置を繰り返し要望している。

委員

- ・定数加配ができるような対策がでてくるとよい。

委員

- ・特別支援学校の過密化の解消が大切。改築だけでなく、時代のニーズにあわせて、新設を含めて検討してほしい。

事務局

- ・整備計画に基づいて学校の設置を行っている。

担当課は学校改革推進課。別の計画で進めていく。

委員

- ・なぜ、中学校から特別支援学校高等部へ進学するのか。一般論として。

委員

- ・保護者は、きめ細かな指導を望んでいる。

事務局

- ・一般の特別支援学校高等部には定員がない。
- ・国立特別支援教育総合研究所の調査で、「一人一人のニーズに応じた指導がなされている」「障害者枠を利用して、就労しやすい」「特別支援学級の生徒の急増」がその理由とされている。

委員

- ・作れば作るほど増える。一方で特別支援学級を作っていくという両方から進めていくことが大切。
- ・様々な特徴のある特別支援学校を作って、「本人・保護者に選んでもらえる」こそが大切となる。

委員

- ・過密化だけでなく、改装も視野に入れてほしい。トイレ等の改装が必要。

委員

- ・選択肢が多くて、保護者が学校を選べるような体制がほしい。

委員

- ・卒業後の豊かな生活に関して、地域・保護者を巻き込んでいくことが大切。将来へのサポート体制の構築を。

事務局

- ・特別支援学校では、他機関との連携により、高等部卒業後、3年間はフォローアップすることとしている。しかし、高等学校へ移行することは困難。

委員

- ・オール千葉で決まれば、しっかりとやっていくことは可能ではないか。

委員

- ・何よりも、社会で自立していける子どもをつくるのが大切。どんなルートでもよい。
- ・「勉強したい」「でも、仕方がわからない」ではいけない。

委員

- ・卒業前に、卒業生が進む福祉施設等の会議に、特別支援学校高等部の職員が入って行くことが大切。そのような「つながり」が重要。

委員

- ・職員の専門性の育成には、悉皆研修を上手に活用したい。

委員

- ・特別支援学校のセンター的機能の活用は、小中学校に大変有効。やはり、特別支援教育コーディネーターの専任化が重要。